

B 17 女子高校生の制服設計に関する研究  
聖徳学園短大 大塚美智子

目的 制服は短期間に注文を受け生産するという性質上、より少ないサイズで多くの体型をカバーさせることが必要である。そのためには個々の体型を知ると同時に、制服パターンの基礎となる母集団の体型の規格化、グレードの適否が重要な意味をもつ。そこで、本研究では、制服着用機会が多い女子高校生を対象として、身体計測および着用実験を行い制服パターン設計上の問題を検討した。

方法 被験者は東京都内在住の女子高校生58名で、衣服設計上重要と思われる12項目について計測を行い、主成分分析法により体型分類を行った。次にJISサイズに基づき、標準サイズに位置する15名の被験者を抽出し、既製制服4種類について着用実験を行った。さらに着用実験の結果抽出された問題点を解消し、フィット性を高めるために、パターン補正を行い、シーケンクにより新たな制服を作成し、着用実験を試みた。

結果 1. 主成分分析の結果、女子高校生の制服のサイズは身長の高さ、肥そう度、背肩幅、腰圍の大小の組み合わせにより分類されることが望ましいと考えられた。2. 本研究の被験者の女子高校生は肩の厚みがある傾向であったが、本既製制服のパターンには、肩部の厚みが十分考慮されていないことが明らかになり、厚みを考慮したパターン設計を行うことにより着用感が著しく向上した。3. 補正パターンを設計し、シーケンクによる着用実験を行った結果、グレード量は腰圍に比べ胸圍が大きいことがわかり、部位別に適正なグレード量を設定することも制服のみならず既製衣料設計において重要な意味をもつことが明らかになった。